

人と組織の力を高める
『人材マネジメントラボ』

中国から起まるマネジ メントのイノベーション

英必諾企業管理諮詢(上海)(インヴィニオチャイナ)

董事兼総経理CEO 大城昭仁氏

一年半にわたった連載だが、今回が最終回となる。これまで顧客先での取り組み事例を交え、人材マネジメント、とりわけ組織開発・人材開発の事例や理論をご紹介してきたが、今回は私自身の思いを込めて、中国の日系企業のこれからのマネジメントについて書かせていただきたい。

主となるマーケットは新興国

これから多くの日本企業の活動が向かう先は、BRICsのその後に続く新興国の国々になるだろう。それがどこかは、企業によつて違うだろうが、少なくとも日本や欧米などいわゆる「先進国」よりも比重が大きくなることは間違いない。

それに伴って、われわれには従来の日本式経営を越えた「新しい」マネジメントの形が求められる。それはどこから生まれるのか？ 私はどう

考えても、それが日本の本社から生まれるとは思えない。日本の硬直した組織制度の問題もあるが、それ以上に社会制度や経済的価値観が違いすぎるからだ。

新興国に向けたイノベーションは、やはり新興国で生まれる可能性が高いと思う。

中国企業の取り組み

私は中国の大手研修雑誌の理事を務めている関係で、中国大手企業の方との接点があるが、おそらく読者のみなさんが考えておられるよりも、彼らの取り組みはレベルが高い。

中国工商銀行は、スイスのIMDに多数の幹部候補人材を派遣し、世界最高レベルのグローバルマネジメントを学ばせている。銀聯は、独自コンセプトで人材育成制度を構築し始めている。

18



大城昭仁(おとしる・あきひと)
●野村證券などを経て、04年インヴィニオ入社。100社を超える上場企業で人材開発体系の構築、次世代リーダー養成プログラム

をはじめとする各種研修プログラムの企画運営、グローバル組織開発プロジェクトを実施。日本証券アナリスト協会検定会員(CMA)、国際公認投資アナリスト(CIIA)。浦東新区外商投資企業協会理事。

こうした中国企業は、資金力や人材も豊富で、これまで欧米の有名コンサルティング会社と一通り付き合ってきたおり、日本人が欧米から学んだようなノウハウはすでに経験済みだ。こうした彼らは今、「自己開発」をスローガンに、自社の成長力・競争力に繋がるようなオリジナルの組織開発に取り組み始めている。

マネジメントのリバース・イノベーションが起る

ハーバード大学のビジャイ・ゴビンドラジャン教授が唱えた「リバース・イノベーション」は、先進国で起こったイノベーションが遅れた国に広がるというわれわれの固定観念を破壊した。

私は、これから製品だけでなく、マネジメントのリバース・イノベーショ

ンが起ると考えている。新興国に通用する新しいグローバルマネジメントの形は、欧米や日本ではなく新興国で生まれる。さらに言えば、「最先端」の新興国、中国がその中心地になるとみている。日系企業の中国拠点は、最先端のノウハウを学び、試し、本社に伝える役割を担う日も近いのではないかと考えている。

本誌12月号から、「中国トップのリーダーシップストーリー(仮)」と題した新たな連載をスタートする。毎回、中国で活躍する日系企業トップと会談し、その方の世界観や人間観に迫っていくと思う。引き続き、ご高覧いただきたい。

※バックナンバーをPDFをご用意しております。ご希望の方は弊社までご連絡下さい。

INVENIO CHINA

Discover the Potential for Leadership

英必諾企業管理諮詢(上海)
(インヴィニオチャイナ)

経営的視点から、企業風土の変革や組織・人材の強化、育成に取り組んでいる。研修やワークショップ、オフサイトミーティングの場を使い、組織・人材の潜在力をEduce=引き出して顕在化させる独自の手法に強みを持つ。

■上海市浦東新区世紀大道8号
国金中心2期8楼
☎021-6062-7290
🌐http://www.invenio.cn/
✉infochina@invenio.jp